

《新しい子どもを迎えるにあたって心がけていること。》

○ 子どもたち一人ひとりは、対等の人格を持つ人間である(大前提)

- ↓
 - × きたない言葉を使わない。
 - × 一人ひとり、学級になくてはならない大切な存在。
 - × 特に授業中は、名前を呼びすてにしない。(～さん)
- 人として信頼関係を築く。

○ 「本当に叱る」とは、

- × 子どもが自分のことを心配だからこそ先生は怒っていると“愛を感じる”ことになる。
- × 子どもの人格をけなすのではなく人格を信じて叱る。
- × 「子どもの人格を尊重するから叱ることはできない。」というのは、誤った考えである。
- × 中途半端な注意は、かえって先生不信につながる。

○ 「本当にほめる」とは、

- × 子どもが先生の“愛”“喜び”を感じるようになる。
- × ほめて育てるのはよいが、おだてても育たない。
- × おだてられたり お世辞を言われたりして悪い気はしないが、先生不信につながる。
- × 真底、先生が、自分のことをほめてくれていると知った時、先生を信じ、その期待に答えていこうとしてくれる。
- × “親の欲目”という言葉があるが、“担任の欲目”もある。
子ども自身の望みとの相乗効果で、素晴らしい結果を見ることがある。子どもの可能性、人格を信じて、ほめるのである。

○ 子どもを人格を持つ人として接するとき、性善説でも性悪説でもなく、善と悪の間で常に選択しながら生活していて、良い方、より良い方を選ぶよう導きたいと考えている。一人ひとりの選択の標準は、ちがっているので、子ども理解が基盤となる。そしてその標準を上げればよいと考えている。(理想を語る)